

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790800148		
法人名	医療法人 健仁会		
事業所名	グループホーム あおぞら		
所在地	福島県喜多方市字下川原8290-16		
自己評価作成日	令和6年2月19日	評価結果市町村受理日	令和6年4月5日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

協力病院が敷地内に併設されており、医療との連携が図れ、医療面、介護面と安心して暮らせる環境である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 運営母体が医療法人であり、常時連携体制が構築されており、緊急時の対応等適切な医療支援があるため、利用者及び家族の安心に繋がっている。また、利用者が変形性膝関節症等になってもサポーターを付け注射とリハビリを行い、今まで同様に掃除を行える等、安心して過ごせる環境となっている。  
2. 利用者一人一人の生活歴を把握し、職員間で話し合いながら利用者の残存能力を活かし、料理の下準備・盛り付け・掃除・縫物・貼り絵等、出来る事を役割として担ってもらい、その人らしく生活できるよう支援している。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和6年3月19日		

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を事務所脇の掲示板に掲示しています。その都度職員間で情報を共有し対応しています。	地域密着型の意義をふまえて作成された事業所理念は、事務所脇に掲示してある。毎月のグループホーム部会等で振返りの機会もあるため、職員間で共有されており、日々の支援の中で理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響もあり、地域との関わりはほとんど持っていませんが、運営推進会議で区長さんや民生委員さんがいらした際にホームの様子を見て頂いています。	コロナ禍で地域との交流行事には参加できていないが、地域の夏祭りの案内や事業所からのお便り等を回覧で回すなどして情報提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際、区長さんや民生委員さん、市役所の担当さんに相談事などの声があがっていないか聞いてみたり、区の見聞板に介護相談を受け付けていますとお知らせしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2か月に1回対面開催していますが、敷地内にあるクリニックや当法人の通所リハビリのコロナ感染状況等を見ながら、状況に応じて書面開催する事もあります。	定期的に行われる運営推進会議では、コロナ等により書面開催の場合もあるが、入居者に関する情報や利用者の生活、行事内容等を説明している。委員から出される運営に関する意見・要望・助言等は、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出る方へ2か月に1回会議で事業所内の実情を報告しています。	市の担当者は運営推進会議の委員になっており、事業所の状況等を把握している。また、管理者等は市が開催するグループホーム連絡協議会に出席し、情報交換や地域課題の共有を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の会議があり、身体拘束にならないか等の話し合いをしています。	身体拘束廃止に関する指針を作成し、事業所として身体拘束をしないことを徹底し、定期的に法人の安全委員会等で身体拘束に当たらないか確認している。スピーチロックにも配慮し、適宜管理者が助言等を行っている。玄関は18時30分から翌朝6時まで施錠し、日中は解錠している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会があり、事業所内での症例について資料を読み合わせして研修しています。	法人の安全委員会を定期的開催し日頃の支援が虐待に繋がらないよう確認している。また、委員会の結果は事業所内の部会で報告している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、勉強会や研修等に参加していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	きちんと説明し理解を得てから署名を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話をする際に用件以外で、必ず利用者様の今の様子をお伝えするようにしています。	家族が通院介助で来た時や面会時・電話連絡時に、利用者の生活状況・健康状態等を報告し、その都度、家族からの意見・希望を伺い、それらを運営に反映させるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、グループホーム会議を開き意見を聞き、検討、対応しています。	年2回、法人役員の職員面談がある。また、毎月の職員会議・日常会話等で管理者は、職員の意見や要望を聞き取り、出された意見等は運営に反映させ、就労環境への配慮や業務改善にも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の理事長、副院長、施設長等がその都度面談をしたり、話をする時間を作っています。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の参加や現場でその都度指導しています。	外部の研修会へ参加した職員は報告書で内容を報告し、理解を深めている。また、新入職員が入った場合等は担当者を決めてOJTを行い、ケアの向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム部会、介護保険事業所合同部会等には出席しています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様には担当職員を付けています。又全職員で情報を共有し同じ対応をするようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会した際は一つずつ説明しながら、ご家族様の話を良く聞き、信頼してもらえるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様とご本人の思いそれぞれをしっかり受け止められるようにお話を伺っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の話以外でも表情や行動等で思いを理解するよう努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なるべく面会出来る時には5分でも会って頂くようにしています。また面会出来ない時でも電話対応等でご家族様との繋がりを絶やさないようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通っている床屋さんや近所の友人がクリニックや通所リハビリに來られた際はお話すの時間を作っています。	家族の協力を得て墓参り等やタクシーを利用して一人で馴染みの美容室への外出、家族対応の外来受診時に自宅での会食や買い物を楽しんでいる利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立している方はいらっしゃいません。耳が遠い方には職員が通訳となりお話できるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度内ではやり取りはありませんでした。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や職員間での情報を共有してその都度対応しています。	利用者の思いや意向は、日頃のかかわりやコミュニケーションを通して把握している。会話が困難な利用者は、表情や仕草を観察して判断するようにしている。また、家族から情報を得て、利用者本位で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や入居前の担当ケアマネに話を聞いたり、本人の話を着て対応しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、業務日誌、ケース記録等で現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子や変わって事等を事業所内会議で話し合ったり、何かあれば本人、家族様と話をして計画の見直しや変更を行っています。	定期的にモニタリングを行い、利用者・家族の要望や担当職員等との話し合いをし、身体状況をアセスメントし、介護計画を作成している。また、利用者の状態に変化があった場合は、その都度話し合い介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等記録に残しておくよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療とも連携をとっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりは出来ていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設された医療機関に協力して頂いています。ご本人が希望する医療機関に受診をしています。	利用者は全員、協力医の訪問診療(月1~2回)を受けており、経過は電話で家族に報告している。協力医の判断で、スムーズに他科受診につなげており、専門医を受診する場合は、家族同行を基本としているが、多くの場合は職員が付き添い、受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に情報の共有をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを提供しています。又相談員を通じて入院中の状況を確認しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期についての聴き取りを行っています。協力医院とも情報を共有してあります。	入居時に看取り介護の指針を説明し同意を得ている。重度化した場合は家族に状況の説明をし、医師・看護師・職員・家族等で方針を共有しながら家族の希望に沿って、看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員を招き救命救急の指導を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を実施しています。運営推進会議の委員の方に避難訓練の様子を見て頂いています。	年2回消防署立ち会いの総合避難訓練と毎月想定を変えて事業所内で避難訓練を行っている。災害時の必要と思われる備品と備蓄は一覧表にまとめて用意してある。運営推進会議委員にも訓練の様子を見学いただいているが、地域の協力体制は不十分である。	様々な災害等を想定した訓練は、夜勤者も全員が参加できるよう日程を調整し、職員全員が昼夜を問わず、利用者が安全に避難できるよう取り組んで欲しい。また、地域の協力体制を早急に構築されたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議等で言葉遣いに気を付けるよう話しています。	日常的所作について気が付いた時お互いに声を掛け合い、人格を尊重し誇りをそこなわないような対応を心掛けている。また、法人による接遇訓練実施を予定している。個人情報の書類は鍵のかかる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に聞きながらレクリエーションなどの活動に参加して頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの時間に合わせて頂いている所もあるので、今後は出来るよう努力したいです。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	離床時は整髪をし身だしなみを整えるようにしています。衣服もご自分で選んで着ている方もいますので、このまま継続していきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	盛り付けを行って頂いたり、バイキングでご自分の好きな食べ物を選んで召し上がったりにしています。	献立と食材準備は法人の管理栄養士が行っており、利用者の望む食事をバイキング方式での提供も取り入れている。毎週水曜日は利用者職員とで作るおやつ作りデイになっている。食事の準備と片付け等は利用者にも手伝ってもらい、一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食摂取量、水分量を記録しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間でトイレ誘導を行い、日中、夜間のパットを使い分けしその方に合った方法を職員間で検討し対応しています。	利用者の生活習慣にあわせたトイレへの誘導支援を行っており、ほとんどの利用者が自力でトイレに行ける。また、パットを使用する場合は、職員間でパットの大きさ等を話し合い一人一人の状況に合わせて使い分けしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を付け排泄パターンを把握し便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ホームの時間に合わせて入浴して頂いているので、今後の課題とします。	入浴は週2回を基本としているが希望により回数を増やすこともある。入浴は職員とゆっくり会話を楽しむ時間になっており、季節により柚子等の入浴剤で季節感を楽しんでいる。入浴を拒む場合は、声をかけるタイミングや職員を変えるなど工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休んで頂いたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を一人一人分かるようにしておき、変更等あればその都度申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物や箱折り、毎日ヤクルトを飲む等一人一人に合わせて対応しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクで出かけたり、ご家族様の協力のもと行きつけの床屋さんや温泉に出かけています。	家族の協力を得て床屋・墓参りへの外出やラーメンなどの外食、事業所の外出レクで桜やひまわり等の季節ごとに地域の自然を楽しむための支援を行っている。職員と100円ショップに買い物に出かける事もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設で行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る方には行ってもらい対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月利用者様に壁画を作ってもらい食堂に貼っています。	共用空間には職員と利用者で大きな壁画を作り掲示し、日めくりカレンダーや時計等がある。エアコンや加湿器で温度・湿度に配慮する他、食堂には床暖も入っており、廊下も広く居心地の良い共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にはソファが置いてありそこで談話したり、各居室には椅子があるので利用者様同士でお話されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	自宅から持ってこられたものを使って頂いています。位牌や写真など持って来られる方もいます。	利用者と家族の意向を尊重し利用者本位の居室作りに努めている。テレビ・写真・衣装ケース・遺影・位牌等を持ち込み自宅と変わりなく心地よく生活できるよう設えてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドやタンスの配置は在宅での住環境等を考慮して使いやすいように配置しています。		